

第33回日本小児泌尿器科学会総会・ 学術集会を開催して

矢内 俊裕

第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会会長
茨城県立こども病院 小児外科、小児泌尿器科/病院長補佐/第二医療局長

この度、第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会を2024年7月10日(水)～12日(金)に水戸市民会館で開催させていただきました。本学術集会が茨城県および水戸市で開催されるのは初めてです。今回も対面で議論するという本来の現地参加のみの形式としました。梅雨時期でしたが大雨には見舞われず、409名の皆様に御参加いただきました。御参加いただいた皆様には心より御礼申し上げます。

学術集会のポスターは、梅の名所である水戸市の偕楽園で子どもたちや家族が寛いでいるデザインとしました(写真①)。御参加いただいた皆様に配布したコングレスバッグは、梅結びの周りにひと筆の丸(輪)を加えた和風デザインとし、絆(結び)の周りに和(輪)という意味を込めました(②)。いずれのデザインも経費削減のため自作です。

本学術集会を担当させていただくにあたり、小児泌尿器科学の基礎を築いた先人からの教を継承し、我々が研鑽を積んでこれまでの手法を進化させ、さらに新たな技術や知見として創造を加え、それを皆で広く共有していくことが重要と考え、学術集会のテーマを「継承×進化+創造→共有」とさせていただきました。「継承と進化、そして創造、それを共有しよう」と解釈してください。

初日には例年どおり教育セミナーが行われ、続いて医療安全講習会では小林弘幸先生(順天堂大学)に「人は何故ミスをおかすのか～守りの美学」を御講演いただきました。また、USハンズオンセミナーには事前申し込みの医師・医学生20名が集まり、講師1名&受講者5名×4ブースに分かれて、自施設で翌日から自信を持って急性陰嚢症のUS診断ができるように、精巣の4ステップ評価を学びました(③)。

モデルを務めてくださった男子中学生の有志4名からは、外陰部のUS操作に対して「僕たちは医学の発展のために貢献したいので平気です」という感動的な言葉をいただきました。受講者からは「体系的な評価手技を習得でき、目から鱗が落ちた」と好評を博しました。

2日目からは口演2会場と



① 学術集会ポスター



② コングレスバッグ

ポスター会場で各セッションが進行し、活発な意見交換が行われました(④)。

招請講演では山高篤行先生(順天堂大学)に「小児泌尿器科に魅せられて」の御講演を賜り、小児外科・小児泌尿器科学との出会いや不断前進で突き進まれた道のりについてのパワフルで楽しいお話に、聴衆は魅了され心に響くものがありました。

特別講演1では今川竜二先生(東大阪生協病院)に「聴覚障害を持つ医師として経験した愉しみや苦しみ」を御講演いただき、試行錯誤しながら診療されているひたむきな姿勢に感銘を受け、我々が失いかけている原点を振り返る機会になるとともに、聴覚障害による情報格差と健康格差についてさらに視野を広げる必要性を感じました。特別講演2では山田不二子先生(チャイルドファーストジャパン)に「小児のセクシャルアビュース」を御講演いただき、性虐待の発見や司法面接などに関する盛り沢山のお話により、小児の性虐待防止の取り組みについて我々が押さえておくべき重要事項を御教示いただきました。

また、JSPU 理事会企画として渡辺 毅先生(日本専



③ USハンズオンセミナーの風景



④ 講演会場の風景



⑤ 会員懇親会のオープニング



⑥ 野口 理事長



⑦ 林 前理事長



⑧ 会員懇親会での水戸黄門一座

門医機構理事長)に「新専門医制度の歴史と今後の課題」の御講演を賜り、サブスペシャルティ領域の新専門医制度を目指して整備中である当学会にとって理解を深めることができました。

盛り沢山の内容となった4つのシンポジウムと9つのワークショップなどでは、エキスパートの先生方に司会をお願いし、その領域のスペシャリストの先生方に御発表いただきました(講演以外の指定演題は56演題)。

性分化疾患に関するシンポジウム1の基調講演では菊水健史先生(麻布大学)に「脳の性分化:男女モザイク脳による性別を超える脳の多様性」を、総排泄腔疾患に関するシンポジウム2の基調講演では青山興司先生(中国四国小児外科医療支援機構)に「国際貢献と総排泄腔異常症」を、小児泌尿器科腫瘍に関するシンポジウム3(日本小児外科学会とのジョイントセッション)の基調講演では西山博之先生(筑波大学)に「小児・AYA世代の泌尿器腫瘍と妊孕性温存」を、神経因性膀胱に関するシンポジウム4の基調講演では室井 愛先生(筑波大学)に「二分脊椎の診断と治療:小児脳神経外科の視点から」をそれぞれ御講演いただきました。

ワークショップでは、急性陰囊症、臨床研究/共同研究、腎盂形成術、忘れられない症例、尿道下裂術後の合併症対策、夜尿症、尿路感染症、VUR手術についてのプログラムを構成しました。

会長特別企画1ではもうすぐ発刊される「停留精巣診療ガイドライン第2版」について、第1版の作成委員長を務められた林 祐太郎先生(名古屋市立大学)や第2版の作成委員長である佐藤裕之先生(東京都立小児総合医療センター)を中心に分かりやすく解説していただきました。会長特別企画2では「小児泌尿器科疾患における保険診療の変遷」について、宋 成浩先生(獨協医科大学埼玉医療センター)に当学会の保険委員会の活動と成果を概説していただきました。

また、共催セミナー(3つのランチョンセミナー、1つのスポンサードセミナー)は、多くの会員の方々の知識の整理に役立ったものと思います。なお、風通しの良い働きやすい環境づくりを目指して、ハラスメント防止講習会を会長が担当いたしました(会

長講演ではありません)。

公募演題には190題を御応募いただき、学会賞候補演題が13演題、THE SECOND~ミドルエイジ・コンテスト~が12演題、一般演題(口演、ポスター)が165演題となりました。学会賞候補演題のセッションでは、一次選考を通過した基礎部門3演題、臨床部門5演題、症例報告部門5演題の口演発表により競っていただきました。今回は初めての試みとして、学会賞応募の対象となる若手の年齢を過ぎて中堅的または指導的な立場で御活躍中の会員に、THE SECOND~ミドルエイジ・コンテスト~という(TV放送された「THE SECOND~漫才トーナメント~」をマネた)企画セッションで会長特別賞を競っていただきました。

会員懇親会は、オープニングでハーレー型の子供用自転車で登場した会長が自前の衣装で2曲を熱唱し(⑤)、野口 理事長(⑥)と林 前理事長(⑦)の御挨拶後に歓談となり、前回に倣った抽選会の前には水戸黄門に扮して寸劇を披露し(⑧)、手作りのおもてなしとさせていただきます。ちなみに、水戸黄門一座の衣装レンタル料金よりもクリーニング代のほうが高かったです(2.5倍)。なお、皆様に御賞味いただきたいと思い、25銘柄以上の地酒を集めました。御参加いただいた皆様楽しんでいただけたなら幸いです。

3日間の学術集会では活発かつ有意義な意見交換が行われ、盛会のうちに終了することができました。また、御参加いただいた方々から「広く学んで楽しめ、記憶に残る学術集会でした」と温かいお言葉をいただいたことは無上の喜びでした。

最後に、本学術集会の開催にあたり多大な御支援・御協力をいただきました皆様、協賛・助成をいただきました企業・財団の方々、運営事務局の(株)PLANNING FORESTやスタッフの皆様、この場をお借りして衷心より感謝申し上げます。

次回の第34回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会は、三井貴彦先生(山梨大学泌尿器科)を会長として2025年7月24~26日に山梨県立県民文化ホールで開催される予定であり、多くの方々に御参加いただき盛会となることを祈念いたします。

